

178. ブラジル一人旅・・・第8回世界水フォーラム道中記

技術戦略部上席調査役 山下洋正

去る2018年3月にブラジルに出張する機会がありました。第8回世界水フォーラム会議がブラジルの首都ブラジリアで3/18～3/23に開催され、筆者はそのなかの3/21の2セッション（循環経済、再生水利用）で発表等を行ったものです。

仕事のミッションは特にトラブルなく達成されたのですが、正直なところ、会議の中身よりも、無事にブラジル入りして、当日会議時間に会場に到着していること自体が、はるかに難易度が高いミッションのように思われましたので、ここにご紹介します。

1. 出発前の準備不足・・・蚊に刺されませんように

筆者は初のブラジル行きでしたが、年度末であわただしく、事前準備も手間取りました。

黄熱病の予防接種が推奨らしく、出発の一月前ぐらいに慌てて予約の電話をかけまくったのですが、実施病院も少なく予約で埋まっており、空きのある日に接種しても効果が出る頃には（要10日）帰国していることになり、あきらめました。

かわりにドラッグストアで季節外れの虫よけスプレーを買い求め、ブラジルの空港で吹きかけました。地元のお婆さんは「何て軟弱そうな外国人だ」とあきれ顔でした。

2. 道中にて・・・飛行機に乗せてもらえそうにありません

行程は1泊5日で、ひたすらエコノミーシートで寝起きする日々でした。

行きは月曜夕方に成田発、ロサンゼルス→サンパウロ→ブラジリアと3本の飛行機に乗って、現地時間の火曜昼（時差12時間なので日本は火曜深夜）に到着です。

道中で問題になったのはビザの有無です。3月まで国交省職員だったので公用パスポートでビザ不要のはずなのですが、航空会社職員には全く浸透していませんでした。

まず成田のカウンターで「ビザが必要なはず」と言われ、しばし足止めを食いました。

次に、ロサンゼルスでの乗継では、「ビザがないと発券できない」と断言されました。しかしここで引き下がってはブラジル入りできないので、他の社員も巻き込んでしつこく食い下がって、ようやく発券にこぎつけました。乗継時間に余裕を見て大正解でした。

こうした苦難を乗り越えつつ、日本出発から約30時間経過し、もう頭がぼーっとして昼か夜かも分からない状態になりながら、ようやく現地にたどり着きました。

3. 現地にて・・・警官だらけで意外に安全

治安が良くないと聞いていましたが、水フォーラムで要人警護のためか、警官の姿があちこちで見られ、安全に過ごすことができました。到着の前日には皇太子殿下も来られていたとのことで、さらに厳重な警備状況だったそうです。

現地でも1泊しかしておらず、地元の店では昼食のみでした。名前は忘れましたが、煮込んだ豆と肉料理で普通の味でした（写真1）。ブラジルといえばコーヒーですが、土産物屋

では特に見かけませんでしたので、日本人の勝手な思い込みなのかも知れません。

ホテルから会場（Ulysses Guimarães Convention Center、写真2）へは、頑張れば歩ける距離でしたが、暑さとスコールのため、タクシー移動となりました。



写真1 ブラジリアの昼食（豆の煮込み他）



写真2 第8回世界水フォーラム会場

4. 肝心の仕事・・・頭も口も回りません

世界水フォーラムのセッションでは、テーマ別会議の全体9テーマのうち、テーマ4：URBANのセッションに出席しました。

午前のセッション「Session 4.b.3 - Promoting circular economy by building an enabling environment」（主催：EurEau 欧州上下水道組合連合、日本水フォーラムより登壇）では、パネリストの一人として、循環経済に向けた日本の技術開発支援、規格化による資源利用推進等を紹介しました。

午後のセッション「Session 4.c.1 - Reuse Technologies: Can We Handle Innovation?」（主催：JSC 日本サニテーションコンソーシアム）では、講演者の一人として日本の再生水利用の取り組みについて紹介しました。

いずれのセッションでも、各国の取り組み等が紹介され興味深いものでしたが、到着までにすでに疲れ果てており、もう頭も口も回りませんというのが正直なところでした。

特に午前のパネルディスカッションでは、パワポ資料はなく口頭でのやり取りのみであり、事前にすり合わせたスクリプトに沿って話すことが基本でしたが、セリフどおりに話そうと急に慣れないことをしても、しどろもどろに聞こえたと思います。

5. 無事に終えて

このような状況ではありましたが、会場内外ではブラジル日本大使館の方にもずいぶんと助けていただき、無事に業務を終えて、夕方に会場を後にして空港へ向かいました。

帰りの便がキャンセルで、ニューヨーク経由がシカゴ経由に変更されるなど、最後まで気の抜けない旅でしたが、黄熱病にもならず何とか無事に帰国することができました。お世話になった皆様に御礼申し上げます。